

『あけぼの 小学生高学年向け』の活用について (報告の要点)

佐久市立中込小学校 白鳥 貴文

＜表紙絵も教材に＞

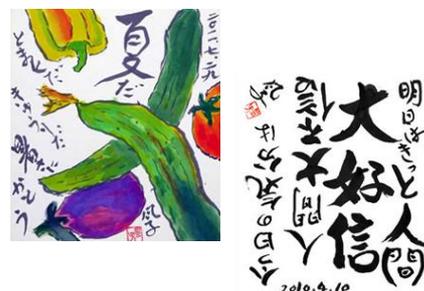
はじめ、印刷会社から左側のイラストが届きました。子どもが広場にやってきた盲導犬に手招きしています。犬の方も、子どもたちが大好きなのか、ユーザーよりかなり前に飛び出してしまっています。印刷会社の方への説明が不十分だったことが原因でした。別のイラストをお願いしようとしたのですが、子どもたちが犬に関心を持つのはよくあることで、むしろ大事な場面に見えてきました。

そして、右側のイラストとなりました。真ん中の子には、傍観せずに行動してもらいました。表紙からも学べるようにしました。



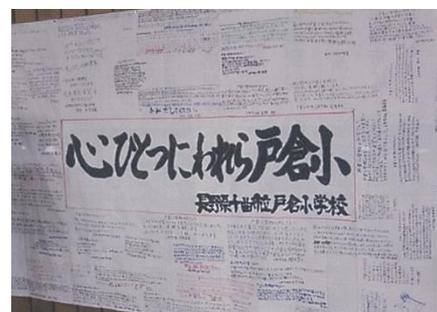
＜富永房枝さんの絵足紙 見返し＞

富永房枝さんが足で描きためた絵足紙。房枝さんの優しさやユーモアが伝わってきますが、「今日の気分は人間大不信 明日はきっと人間大好信」の言葉も心に留めたいと思います。



＜心をつなぐ ～絆～ P10＞

東日本大震災後の宮城県南三陸町立戸倉小学校と千曲市立戸倉小学校との交流の様子を教材にして5訂版に載っていましたが、その後、2019年10月の台風19号による千曲川の浸水被害では、南三陸町の戸倉小から千曲市立戸倉小へお見舞いの電話が来たそうです。そのことを加筆しました。深い絆で結ばれている両校です。



＜安心できる友だち P16＞

新型コロナウイルス感染者や家族を守り、差別をしない学級・学校づくりの事例を教材にしました。それぞれの学校・園、職場・地域等で、新型コロナウイルスのもたらした差別の問題とどう向き合ってきたか振り返りながら、自分の人権を守り他の人の人権を守るにはどうしたらよいか学び合うことは、これからの子どもたちの生き方の核になっていくと思います。



＜大好きなおばあちゃん P16＞

飯綱町が認知症の理解を深めるために作成した「紙芝居 大好きなおばあちゃん」を教材としました。

「おばあちゃん」を中心に、家族と地域の人たちがつながっている話です。



<エスコーラ シャータ（学校、つまらない！） P30>

2014年発行の5訂版に掲載されていた教材ですが、本文は変更してありません。2016年に施行されたヘイトスピーチ解消法の趣旨に沿った内容になっていると思います。

学習に際しては、CD「言葉がわからない」体験ゲーム「何が起った？（震災編）」（滋賀県国際協会）を導入で使う展開も考えられます。



<おとなりの外国人 P70>

阿南町にある特別養護老人ホーム赤石寮で働くインドネシア出身の二人の女性と施設長さんの話です。県社会福祉協議会発行「福祉だより信州 No. 785 2021年5・6月号」掲載の記事を使わせていただきました。

2021年に名古屋出入国在留管理局の施設に収容中だったスリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリさんが死亡した事件は、多くの日本人に衝撃を与えました。日本が好きで日本語を学ぶために来日したウィシュマさんのような人たちを温かく受け入れ支えられる日本社会でありたいと思います。



<「チャレッソ（頑張ったね）」～小平奈緒さんと李相花（イ・サンファ）さんの友情～ P72>

2018年2月、韓国の平昌（ピョンチャン）で冬季オリンピックが開催されましたが、このオリンピックで生まれた、後の時代まで語り継がれていくことになる印象深い出来事を教材にしました。

<本当のことを知ってください ～ハンセン病と差別～ P94>

群馬県草津町にあるハンセン病療養所、栗生楽泉園の長野県人会長であった丸山多嘉男さん。丸山さんは、ずっと探していた新聞記事を見つけます。

「ライ患者一掃 まず八名収容」の見出し。丸山さんが療養所へ隔離された時と一致する日付の新聞記事の見出しです。丸山さんは、この記事の「一掃」という言葉を見ました。「おれはゴミじゃない」。同じ仲間のためにも自分は語らなければいけないと決心して、講演活動を始めました。『あけぼの 小学生高学年向け』には、丸山さんの話が「本当のことを知ってください」という教材名で載っています。

ハンセン病療養所多磨全生園にいらっしゃる山口きみ江さんの話をまとめた本があります。（偕成社）現在、長野県内の多くの小学校で使われている小学校5年生の道徳教科書（光村図書）には、山口きみ江さんの話が教材として掲載されています。

長野県の多くの小学校で、高学年になると、ハンセン病問題に出会うことになります。

<これからも大事な教材>

「村人さえ無事ならば」「おらあ 学校へ行ってえ」など、これまで大事にしてきた教材も掲載されています。

<人としてどう生きたいかを自問させていきたい>

「あけぼの」の活用にあたっては、知識や答えを教え学ばせるのではなく、自らの姿を見つめ、差別をするかもしれない自分の心に問いかけながら、差別される人の心の痛みを自らの心と重ね、人としてどう生きたいかを自問させていきたい。そんな使い方をお願いします。

